

北見市における景気動向調査報告書

< 第 I 四半期 >

北見商工会議所

I. 調査要領

1. 調査時点及び調査対象期間

(1) 調査時点 令和4年7月22日

(2) 調査対象期間 令和4年4月～6月期実績および令和4年7月～9月期見通しについて調査した。

2. 調査対象

北見市に所在する企業を対象に、製造業、建設業、卸売業、小売業、サービス業の5業種150社をインターネット（Google forms）、FAXにより調査した。

3. 回収状況

業種 \ 企業数	対象企業数	回答企業数	回答率
製造業	30社	24社	80.0%
建設業	30社	26社	86.6%
卸売業	30社	22社	73.3%
小売業	35社	21社	60.0%
サービス業	25社	18社	72.0%
合計	150社	111社	74.0%

注) 本調査結果の中で、D・I値とある記号は、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）で好転企業割合から悪化企業割合を差し引いた値を示す

Ⅱ．概 況

《 全 体 の 動 き 》

令和4年度第Ⅰ四半期<4月～6月>の北見市における業況は、前年比で「好転企業」24.3%、「悪化企業」39.6%、「好転」から「悪化」を差し引いたD・I値は△15.3となっています。

前年同期（△17.6）との比較では2.3ポイントの改善傾向を示しました。また、前期調査<令和3年度第Ⅳ四半期>と比較してみると前期△29.9→今期△15.3と14.6ポイントの大幅な改善傾向を示しています。

今回の業況を業種別で見ると、製造業D・I値4.2、建設業△26.9、卸売業△31.8、小売業△33.3、サービス業16.7となっており、前年同期調査と比較すると、サービス業で47.9ポイント、製造業で42.3ポイントの大幅な好転となりました一方で、卸売業で31.8ポイント、小売業で20.2ポイント、建設業で14.4ポイントの大幅な悪化となりました。これらの業種では、後半に記載のフリーアンサー及び、「円安に関する影響調査」において、ウクライナ情勢や中国のロックダウン、円安の進行により、海外と直接・間接的に取引がある企業がダメージを受けているコメントが多くありました。

来期の見通しを全業種で見ると「好転企業」15.3%、「悪化企業」42.3%でD・I値△27.0と、前年同期見通し（△24.3）に比べ2.7ポイントの悪化となり、長引くコロナ禍と世界情勢の緊迫化により厳しい見通しとなっています。

《 業 種 別 の 動 き 》

1) 製 造 業

生 産 高

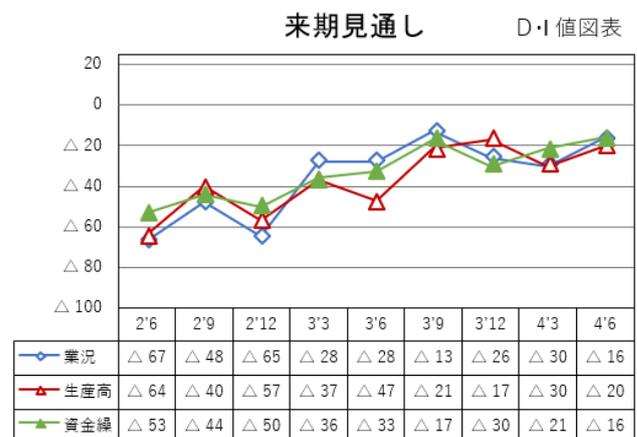
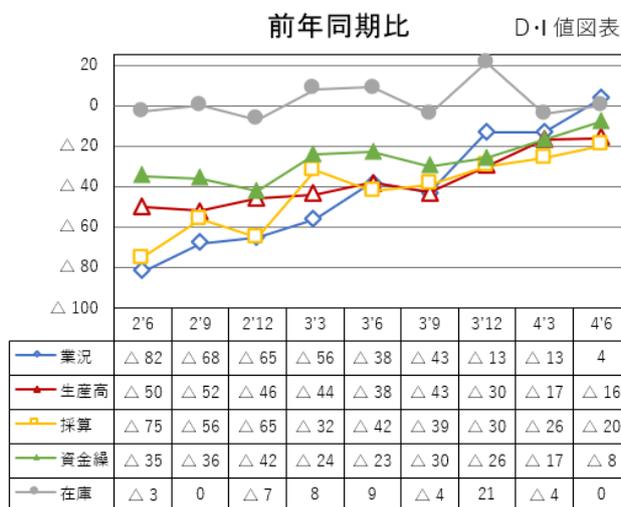
前年比で「増加企業」25.0%、「減少企業」41.7%、D・I値△16.7と前年同期（△38.1）に比べ21.4ポイントの大幅な改善となりました。

採 算

前年比で「好転企業」25.0%、「悪化企業」45.8%、D・I値△20.8と前年同期（△42.8）に比べ22.0ポイントと大幅に改善しました。

来期見通し

業況D・I値△16.7（前年同期D・I値△28.6）、生産高△20.8（同△47.6）、資金繰り△16.7（同△33.4）と、前年同期に比べ、全てで改善傾向を示しました。



2) 建設業

完成工事高

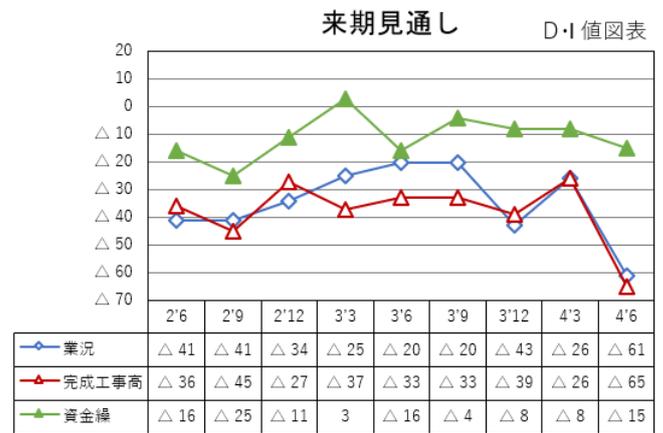
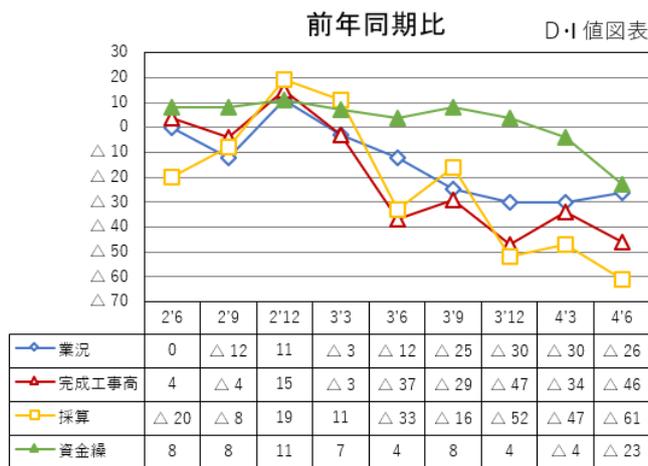
前年比で「増加企業」15.4%、「減少企業」61.5%、D・I値△46.1と、前年同期(△37.5)に比べ8.6ポイントの悪化となりました。

採算

前年比で「好転企業」11.5%、「悪化企業」73.1%、D・I値△61.6と、前年同期(△33.3)に比べ28.3ポイントの大幅な悪化を示しました。

来期見通し

業況D・I値△61.5(前年同期D・I値△20.8)、完成工事高△65.4(同△33.3)、資金繰り△15.4(同△16.6)と前年同期に比べ、全ての見通しで悪化を示しました。



3) 卸売業

売上高

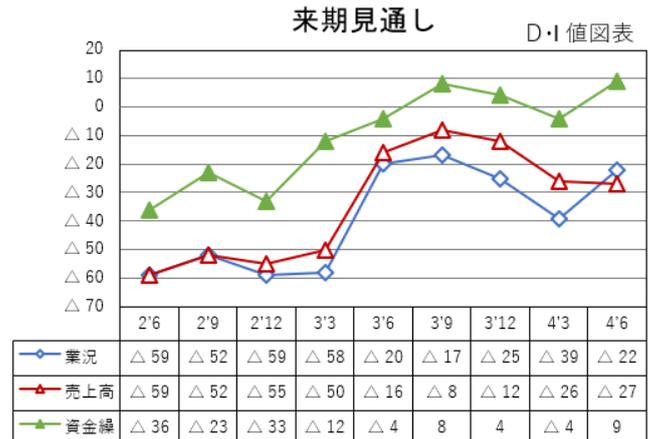
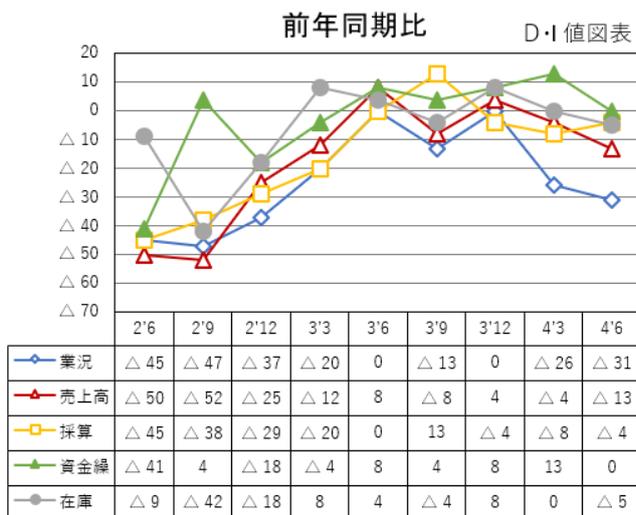
前年比で「増加企業」31.8%、「減少企業」45.5%、D・I値△13.7と前年同期(8.3)に比べ22.0ポイントの大幅な悪化傾向を示しました。

採算

前年比で「好転企業」27.3%、「悪化企業」31.8%、D・I値△4.5と前年同期(0.0)に比べ4.5ポイントの悪化となりました。

来期見通し

業況D・I値△22.7(前年同期D・I値△20.8)、売上高△27.3(同△16.6)、資金繰り9.1(同△4.2)と前年同期に比べ、資金繰りでのみ改善を示しました。



4) 小売業

売上高

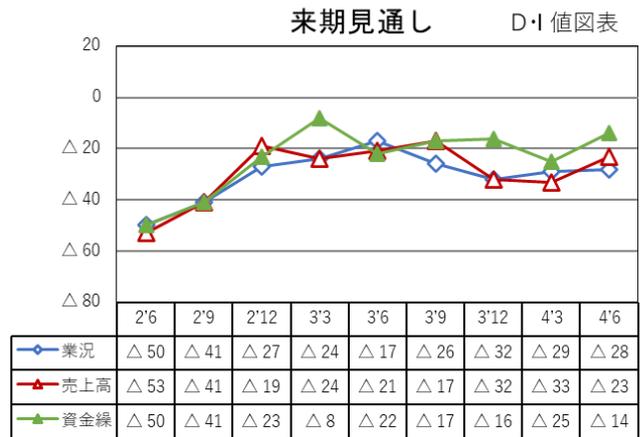
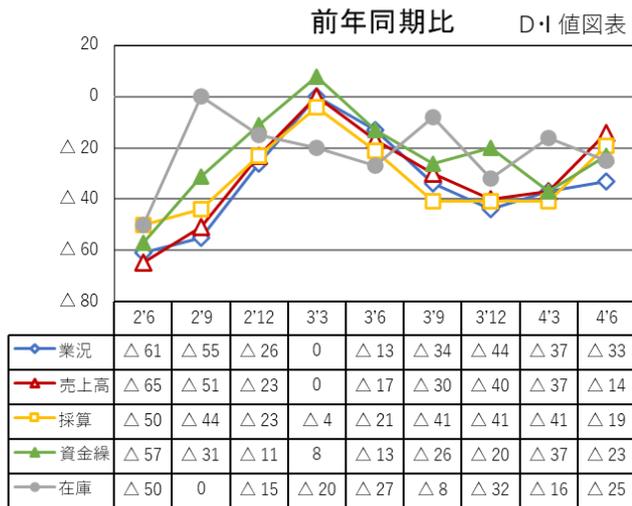
前年比で「増加企業」23.8%「減少企業」38.1%、D・I値△14.3と前年同期(△17.4)に比べ3.1ポイントの改善となりました。

採算

前年比で「好転企業」14.3%「悪化企業」33.3%、D・I値△19.0と前年同期(△21.7)から2.7ポイントの改善となりました。

来期見通し

業況D・I値△28.6(前年同期D・I値△17.4)、売上高△23.8(同△21.8)、資金繰り△14.3(同△22.7)と前年同期に比べ、資金繰りのみ改善見通しとなりました。



5) サービス業

売上高

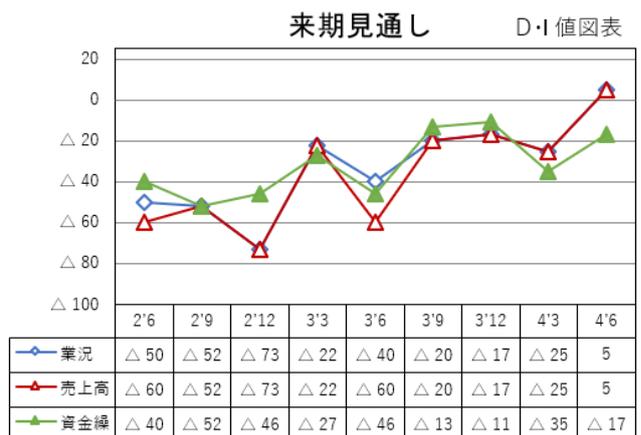
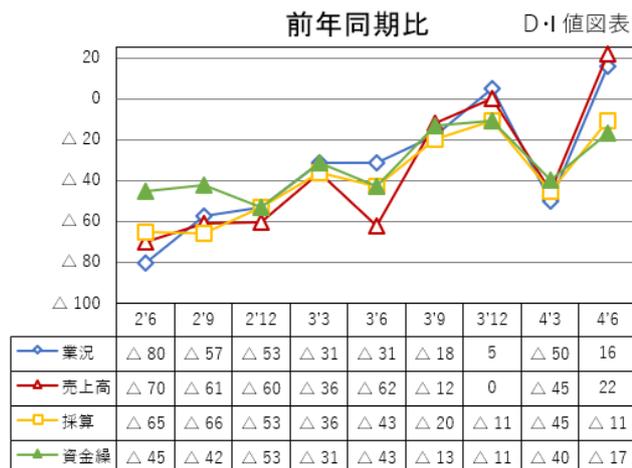
前年比で「増加企業」44.4%「減少企業」22.2%、D・I値22.2と、前年同期(△62.5)に比べ84.7ポイントの大幅な好転を示しました。

採算

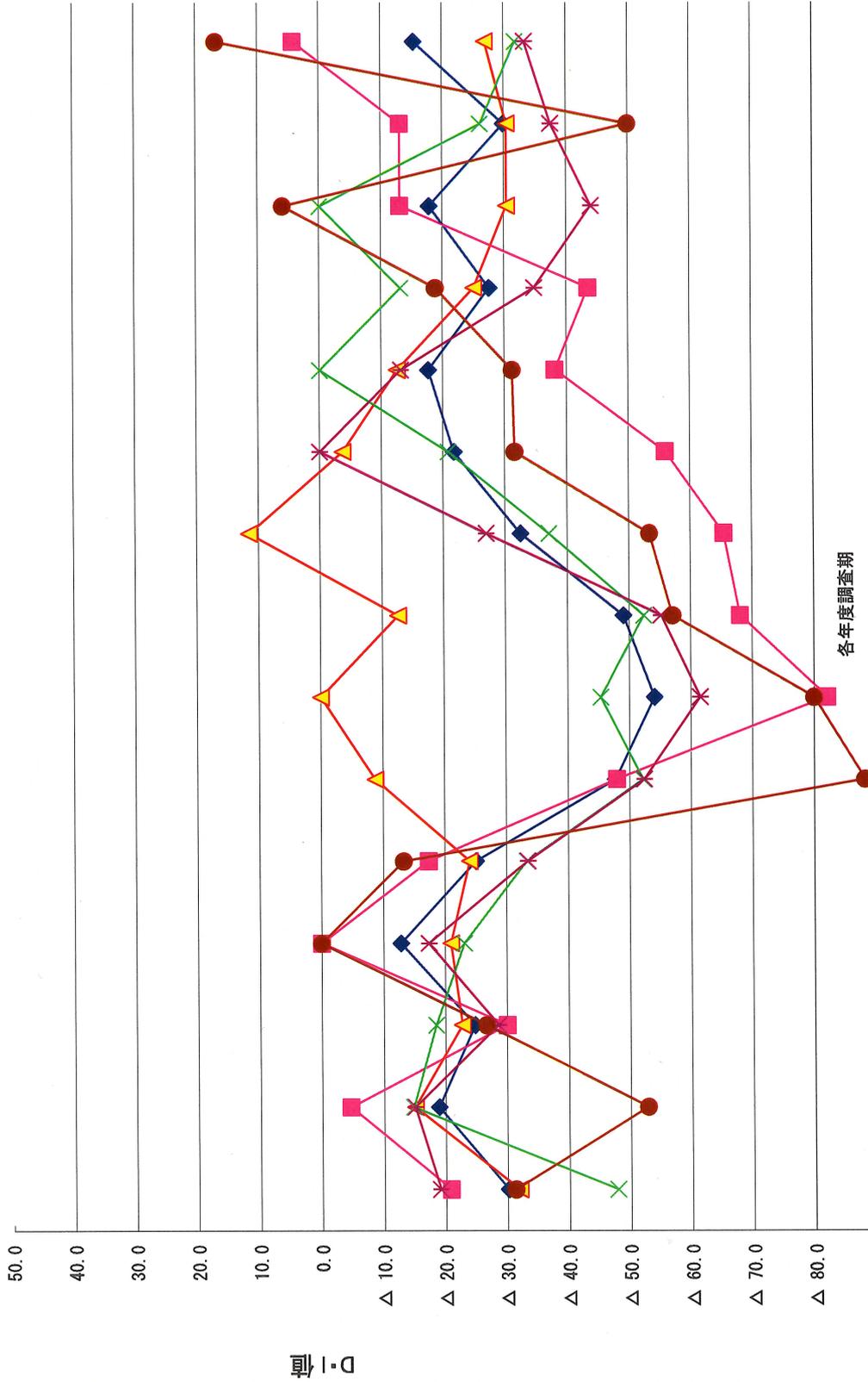
前年比で「好転企業」27.8%「悪化企業」38.9%、D・I値△11.1と前年同期(△43.7)に比べ、32.6ポイントの大幅な改善を示しました。

来期見通し

業況D・I値5.6(前年同期D・I値△40.0)、売上高5.6(同△60.0)、資金繰り△17.6(同△46.6)と前年同期に比べ、前年同期に比べ、全てで大幅な改善を示しました。



各年度調査期における業況（前年同期比）のD・I値の比較



各年度調査期		30.10~12	31.1~3	31.4~1.6	1.7~1.9	1.10~1.12	2.1~2.3	2.4~2.6	2.7~2.9	2.10~2.12	3.1~3.3	3.4~3.6	3.7~3.9	3.10~3.12	4.1~4.3	4.4~4.6
平成30年度		平成30年度	令和元年度	令和元年度	令和元年度	令和元年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度	令和2年度	令和2年度	令和3年度	令和3年度	令和3年度	令和3年度	令和4年度
III		IV	I	II	III	IV	I	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I
全業種	△ 30.2	△ 18.9	△ 24.8	△ 12.8	△ 25.0	△ 47.7	△ 54.1	△ 49.1	△ 32.5	△ 21.7	△ 17.6	△ 17.6	△ 27.5	△ 17.8	△ 29.9	△ 15.3
製造業	△ 20.8	△ 4.6	△ 30.0	0.0	△ 17.3	△ 47.9	△ 82.1	△ 68.0	△ 65.4	△ 56.0	△ 38.1	△ 38.1	△ 43.5	△ 13.0	△ 13.0	4.2
建設業	△ 31.9	△ 15.0	△ 22.7	△ 20.9	△ 24.0	△ 8.7	0.0	△ 12.5	11.5	△ 3.7	△ 12.5	△ 12.5	△ 25.0	△ 30.4	△ 30.4	△ 26.9
卸売業	△ 47.9	△ 14.8	△ 18.5	△ 23.1	△ 33.3	△ 52.2	△ 45.4	△ 52.4	△ 37.1	△ 20.8	0.0	0.0	△ 13.1	0.0	△ 26.1	△ 31.8
小売業	△ 19.1	△ 15.0	△ 28.6	△ 17.3	△ 33.4	△ 52.4	△ 61.5	△ 55.2	△ 26.9	0.0	△ 13.1	△ 13.1	△ 34.8	△ 44.0	△ 37.5	△ 33.3
サービス業	△ 31.3	△ 52.9	△ 26.7	0.0	△ 13.3	△ 88.2	△ 80.0	△ 57.1	△ 53.4	△ 31.6	△ 31.2	△ 31.2	△ 18.8	5.9	△ 50.0	16.7

業 種 別 経 営 上 の 問 題 点

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
製 造 業	諸 経 費 増	人 材 不 足	人 件 費 増	得 意 先 減 少	同業者間の競合
建 設 業	人 材 不 足	諸 経 費 増	同業者間の競合	人 件 費 増	得 意 先 減 少
卸 売 業	人 材 不 足	諸 経 費 増	人 件 費 増	同業者間の競合	得 意 先 減 少
小 売 業	諸 経 費 増	人 材 不 足	得 意 先 減 少	同業者間の競合	人 件 費 増
サービス業	諸 経 費 増	人 材 不 足	人 件 費 増	資金調達困難	得 意 先 減 少
合 計	諸 経 費 増	人 材 不 足	人 件 費 増	同業者間の競合	得 意 先 減 少

※ 問題点は、各業種とも3つ選択。

○全業種でみると、前回調査に引き続き、トップ3位までの順位に変動はありませんでした。また、業種別でみると、製造業、小売業、サービス業で「諸経費増」がトップとなっており、建設業、卸売業では前回調査と同様「人材不足」がトップでした。

コロナ禍やウクライナ情勢、円安の進行による諸経費増加に対応が迫られる中、人材確保への対策が後回しとなっている状況となっています。また、仕入れ価格が高騰し、取引先・顧客への価格転嫁の対応に苦慮している声が多数上がりました。

※その他及び具体的な業界の問題点と新型コロナウイルスによる影響についての記載事項

① 物資への影響

- コロナの影響は多少落ち着いてきたが、先の見えない原材料高の対応に苦慮している。(製造業、他3件)
- 価格改定のお願いを終えたところに更なる原料高値上げがきて、また値上げのお願いをすることになり、困惑している。(製造業)
- 3カ月おきの材料の高騰を工事代金に反映しにくい。(建設業)
- ウッドショックの影響から、コストを含め価格の高騰が続いる。(卸売業)
- 納期遅延、価格の高騰。モノが無く、価格が上がるという状況が当面続く。(卸売業、他小売業2件)
- 原材料の高騰、円安による急激な仕入れ価格の上昇を、今後、販売価格に転嫁できるかが不透明。(卸売業)
- 輸入中心のため、かなり影響がある。(小売業)
- 原油高、物流費上昇、円安の影響で原料の価格が高騰しても客単価に転嫁できないのが現状。これからさらに苦戦を要すると考えられる。(サービス業、他1件)

② 流通の影響

- 原油高騰による製品価格の上昇や世界情勢不安定による海外製品（部品等）の供給不足により、販売する製品の納期が非常に不安定となっており、販売活動に大きな影響が出ている。（建設業）
- 半導体や部品調達不足で自動車の生産遅れにより、売上が減少している。（小売業）
- 仕入れ先からの商品配送の遅延（小売業）
- 値上げ、商品の高騰に伴い商品確保する事が難しくなっている。特におもちゃは輸入商品が多い為商品が入荷しない。（小売業）
- コロナウイルス、半導体不足、ウクライナ侵攻等による仕入先の値上げ、納期遅延。（サービス業）

③人材不足の影響

- 業界は慢性的に男性スタッフが不足し、募集しても反応が無いのが現状。（サービス業）

④新型コロナウイルス感染症の影響

- コロナ前同期と比較すると6割とまだ低い水準。現在の状況で推移すればかなり好転が見込まれるものの、感染者がまた増加しているので、実際には先が見えないのが実情。（製造業）
- 人を集める様なイベントがまだまだ出来ない為に、チラシなどの印刷物や関連商品の注文が減少している。（製造業）
- インバウンドの回復を期待する。（卸売業）
- コロナの影響により前年同期の売上が回復しつつあるが採算ベースにまだ追いついていない。コロナ資金借入返済もかなり重い。（小売業）
- 宴会を中心にバンケット部門はコロナ禍からの回復の兆しが未だに見込めない状況。（サービス業）
- 一時期ほどコロナの影響は無くなってきている気はするが、オホーツク管内の状況を考えると、まだまだ油断は出来ないと思う。（サービス業）
- コロナが無くなったかのように観光客が増加し感染防止意識の低下。人数を制限し接客するも、お叱りを頂くなど、もう大丈夫じゃないかと主張されるお客様が増加している現状。（サービス業）

⑤その他

- 原石からの製品の個人受注が減少の為悪化、墓じまい等により減少傾向にある（製造業）
- 受注の減少と注文数量の減少（製造業）
- 地元優先志向が薄れてきている。（建設業）
- 北見市の「リフォーム・解体補助事業」の申請開始が遅く、塗装工事の有効期間が短すぎるため、5月～7月予定工事を中断し、資材販売にも弊害が出ている。市に対応を求めたい。（卸売業）
- 児童生徒数の激減、統廃合による学校数減、公務員給与（ボーナス含む）の減少による顧客の購買意欲の低下（小売業）
- 商売が思わしくいかない。景気が盛り上がるのを期待している。（小売業）

○5～10年以内に繁華街の店舗が激減すると想定され、売上減少に繋がる。(サービス業)

○例年、農業関連のお客様は時期的に来店の周期が延びてしまう傾向がある。(サービス業)

業況

製造業 ⇒ 好転 (農産物加工、ビール製造、松製材、一般製材、鋳物製品)
悪化 (農業用機械、製麺、石材加工、建設用金属製品、帆布製品)

建設業 ⇒ 好転 (建築設計・監理、板金、給排水・冷暖房)
悪化 (土木建築、塗装)

卸売業 ⇒ 好転 (業務用食品、牛・豚等内臓肉販売、種苗・農薬農業資材)
悪化 (事務機器、医療・介護機器、作業服・事務服、建材、鉄鋼、家電、一般菓子、石油製品、建築金物)

小売業 ⇒ 好転 (菓子、家具)
悪化 (総合食品、自動車、食肉、教材教具、眼鏡、画材、米穀)

サービス業 ⇒ 好転 (自動車賃貸)
悪化 (理美容)

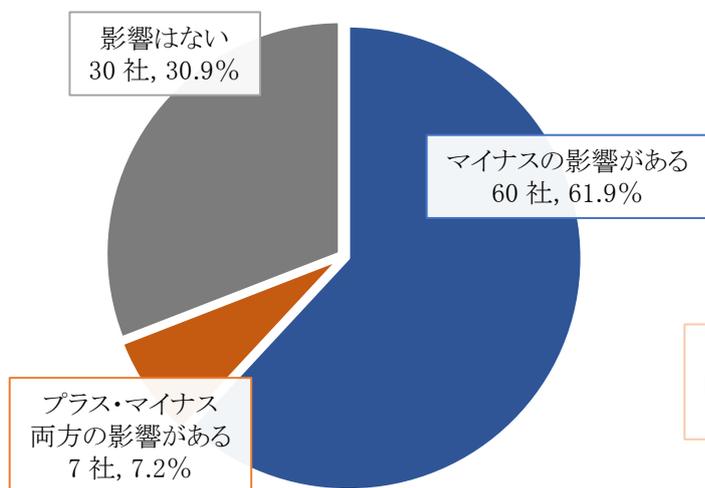
(※太字アンダーライン表示は重複該当業種)

円安 (1ドル=135円前後) に関する影響調査

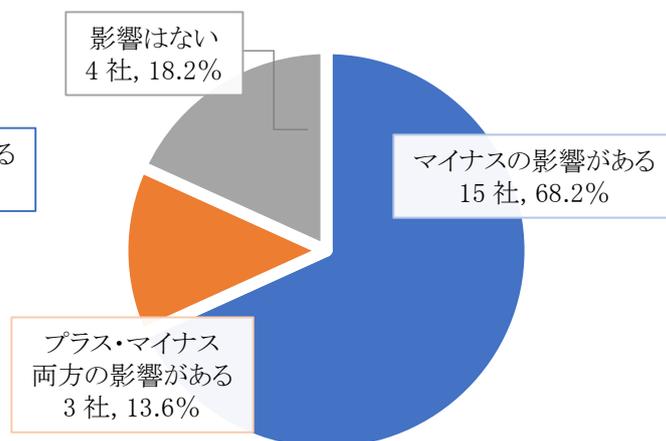
外国為替市場は調査時点（令和4年6月中旬）で、1ドル135円前後まで下落した。円安による北見市内企業への影響（具体的影響、プラス面、マイナス面）について調査を実施した。

調査はインターネット（Google Forms）によって行った。

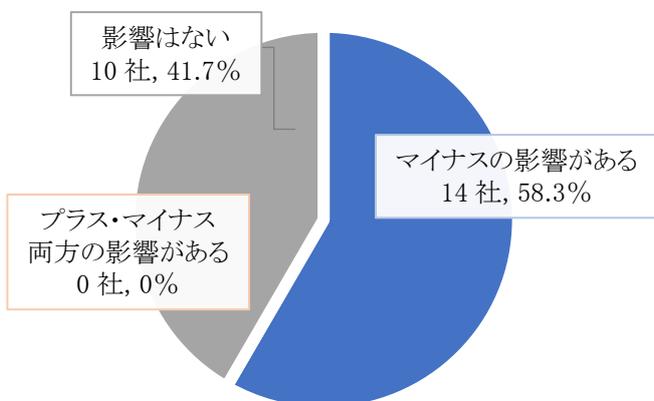
業種別の影響



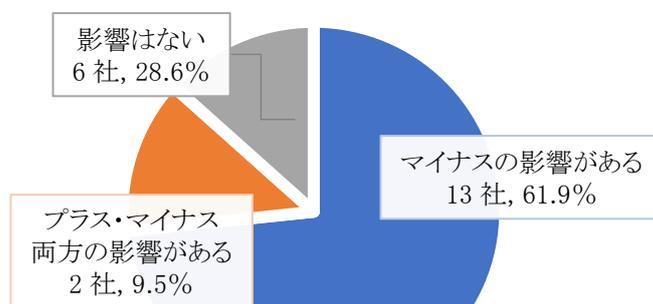
全体



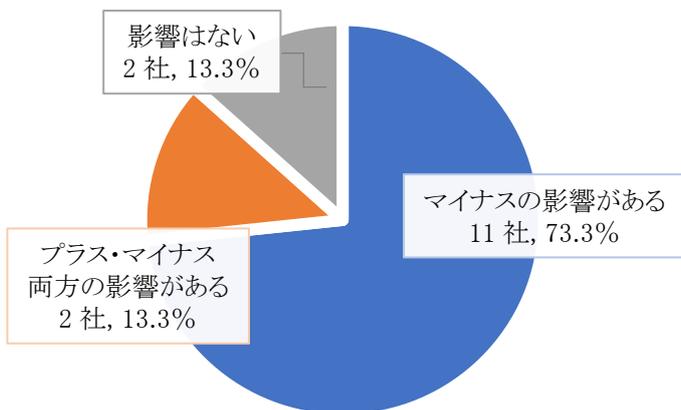
製造業



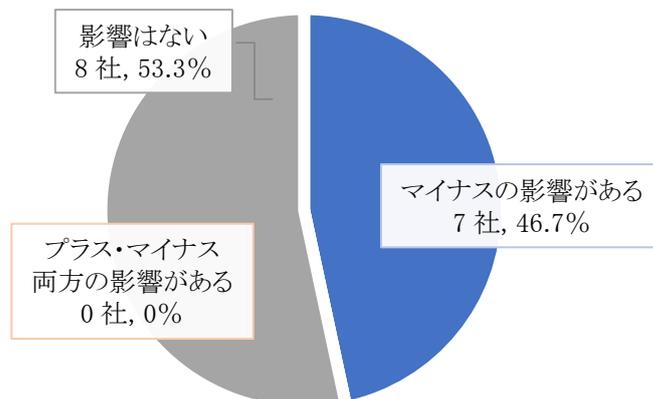
建設業



卸売業



小売業



サービス業

円安加速による北見市内企業への調査回答は「マイナスの影響がある」企業が全体で61.9%、「プラス・マイナス両方の影響がある」企業が7.2%、なお、「プラスの影響がある」と回答した企業は0%となった。「影響はない」が30.9%、合計69.1%の事業所が経営へのマイナス影響を受けている結果となりました。

円安に関する具体的影響と対応策の記載事項

円安に関する具体的影響とその影響への対応策を自由記述にて回答を得た。

業種	具体的な影響（懸念）点	影響への対応策
製造業	燃料光熱費、原材料の価格高騰、受注量の減少（他7件）	<ul style="list-style-type: none"> ・製品の値上げをお願いしている。（他4件） ・本年値上げを実施しているが、更なる価格転嫁を検討。 ・製品の品質を落とす事は出来ないので、価格改定を既に実施したが、再値上げも検討。 ・仕入材料は多少の買ひだめはしているが、どうにもならない。 ・仕入れを最小にし、在庫を加工販売。 ・見積書の有効期限短縮、材料発注を早めに注文し、高騰を是正。
	ステルス値上げが推奨される業界	ステルス値上げをなるべくしないよう、パッケージ変更に伴う価格変更で対応。
建設業	燃料光熱費、原材料等の価格高騰（他10件）	積算時の価格転嫁
卸売業	原料・仕入価格の高騰、諸経費の増加、資金繰り（他9件）	<ul style="list-style-type: none"> ・販売価格への転嫁。 ・適正在庫数で推移させていく。 ・製品在庫の案内、早期検討で受注につなげる。 ・成り行きに任せる。
	輸入製品の仕入れ価格の上昇（他2件）	<ul style="list-style-type: none"> ・顧客への値上げをお知らせしている。（他2件） ・経費削減。 ・今はまだ取り組むまでいってない。
小売業	輸入品の仕入価格高騰（他2件）	<ul style="list-style-type: none"> ・我慢を強いられる。 ・仕入れ打率を高める。 ・競合店の価格を比較しながら対応。
	仕入価格の高騰	価格に関しては素直に商品を値上げします。
	部品・用品の高騰による、買い控え（他1件）	値引き対応しています。
サービス業	燃料の高騰による光熱費の増、食材・包装材などの原価上昇（他3件）	<ul style="list-style-type: none"> ・タイムリーな価格転嫁は難しいが、できるかぎりの価格転嫁を凶っている ・販売価格の見直し
	物価上昇に伴う原価高、お客様の「無駄金を使ってはいけない」と思う気持ち	マイナスになるくらいなら辞める勇気
	材料費の値上がり	商品の値上げ必要